

外信	6
2.	17

理論物理学国際会議に関する  
外部との往復通信一束

(2月11日—2月17日)

A. 着 信

1. Kellyから参加者推せん. (2.5付 Ch.64)

米国海軍研究本部(ONR)のChief Scientist and Deputy Chief, Dr. Emanuel R. Piore.——同氏の役所は日本から研究のために渡米する多くの日本科学者の渡航費及び研究費について世話をしている。又同氏は会議参加者としても寄与することがあるであろう。(本件に関する審議決定については 在京7 項目5の(あ)参照)

2. Mottから来日についての打合 (Ch.114)

小谷委員あて、来日については着京の期日は何日がいかに因して照会。Mottの都合としては10月初までに帰英しなければならない。

3. Dr. William A. Conn, Kansas Cityから参加申込

「国際会議のことを聞いたが、夫婦で極東旅行を計画していたところだから、参加させてもらいたい。」

B. 発 信

1. Pioreあて招請状 (2.16付 Ch.110) (前出Aの1項参照)

滞日経費日本側負担の招請。

2. Kelly へて Piore 招請について連絡 (2.16付 Ch.110)

(加出 A の1項及び 外信 5 A の3の返信)

国際会議以外の機会に来日されることを了承の挨拶と Piore を滞日経費付で招請することにした通知。

3. Mott へて上の A の2の返信 (2.16付小谷委員宛 Ch.114)

「10月初までに帰国されるのならば8月末か9月初に来日出来ないだろうが、そうすれば講演もそれに合せて会議前に開くように都合する。

講演希望は物理学会・阪大・東北大・北大等から寄せられている。他に日光の壺性シンポジウムにも出ていただきたい。

又見物される物についても特に趣味があったら、知らせていただきたい、旅行計画に出来るだけ織り込むから。」

4. Slater へて会議準備連絡 (2.15付 Ch.52 — 外信 4 A の2項の返信)

Breit, Hirschfelder, Massey, Pais, Piore, Proca, Townes (Massey, Pais, Proca は滞日経費付)等に招請を出したこと。

素粒子関係の参加者には、そのうちに照会の手紙を出すことになっていること。